

令和8年2月20日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）教育の大綱に対する考え方について

児童生徒の減少という社会情勢に直面する中で、地域と学校との連携の必要性和現状をどのように認識しているのか、教育長の所見を伺う。

また、地域と連携した学びの充実について、次期教育の大綱にどのように位置づけるのか、併せて教育長に伺う。

（答）

少子高齢化等の進展に伴い、地域のつながりの希薄化が生じている中、将来にわたって持続可能で活力あふれる社会としていくためには、地域と共に学ぶ教育の充実を図ることが重要であり、各学校段階に応じて、地域への愛着や誇りを持ち、地域社会に貢献できる人材を育成することが必要であると認識しております。

こうした観点を踏まえ、本県の未来を担う子供たちが、広島県のものづくりなどの産業、県土や県民の暮らしと安全を支える職業に興味を持てるよう、地域社会と連携し、体験的・実践的な広島ならではのキャリア教育を進めていくことが必要であると考えております。

このため、各学校におきましては、

- ・ 地域の企業と連携した出前授業や職場体験活動等を通じたキャリア教育、
- ・ 学校と地域が育てたい子供像や、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する「コミュニティ・スクール」の推進などに取り組んでいるところでございます。

また、昨年12月には、キャリア教育に協力可能な企業のデータベースを掲載したウェブサイト「ミツカル！ひろしまカンパニー」を開設し、職場見学や職場体験活動、企業からの講師派遣や、企業との共同研究など、学校と地元地域にある企業とが連携・協働した取組のより一層の充実を図ることとしております。

さらに、今後の県立高等学校の在り方に関しましては、大学や地域産業界と連携して、探究活動に取り組むことを通じ、地域社会の課題解決に貢献できる人材の育成を目指して、「新しい普通科」を開設するほか、地域産業界と連携して実社会の課題を解決する力を育む新たな学校・学科を設置すること

としております。

教育委員会といたしましては、こうした地域と連携した学びを一層充実してまいりたいと考えており、次期「広島県 教育に関する大綱」につきましては、地域の企業と連携した体験的・実践的なキャリア教育の充実や学校・家庭・地域が連携・協働した教育の推進について盛り込み、引き続き、総合教育会議におきまして議論をしてまいりたいと考えております。